Osaka University of Economics and Law

[キャリアヴィジョン]
Vol.15 2019.04.01

CareerVision

大阪経済法科大学 キャリアセンター

3月18日、本学の第45回卒業式が行われました。この日巣立った603人の中から、メンターとして後輩たちのキャリア支援に携わった27人にメッセージをもらいました。

4年間の学びを胸に、いま、夢の未来へ!

卒業生 Voice

（アイウエオ順）

本学は自分のやる気次第で、いくらでも成長できる大学です。

ダイシン物流株式会社入社
揚戸 雄哉さん
経済学部経済学科
和歌山県立海南高等学校出身

就職活動は自分自身と向き合う時間。後悔のないよう真剣に。

北河内農業協同組合入組
荒木 省吾さん
法学部法律学科
大阪府立守口東高等学校出身

大学時代は社会人への準備期間。卒業後を見据えた行動が大切です。

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社入社
板山 未玖さん
経済学部経営学科
京都府立京都すばる高等学校出身

大学生活を充実させるのは自分次第。行動範囲を広げてチャレンジを。

株式会社パソナグループ入社
浦口 健一さん
経済学部経済学科
大阪府立北かわち皐が丘高等学校出身

今後の人生を大きく左右する就職活動。真剣に悩み考えて

兵庫県警察本部入職
小野山 雅子さん
法学部法律学科
兵庫県立兵庫高等学校出身

4年間は長いようであっという間です。思い立ったらすぐ挑戦を!

滋賀県警察本部入職
北村 透惟さん
法学部法律学科
滋賀県立草津東高等学校出身

宅建などの資格は就職活動に有利。学内の講座を上手に活用しよう。

株式会社紅中入社
木下 優奈さん
経済学部経営学科
私立明浄学院高等学校出身

公務員を目指すなら、信頼できる講師陣が揃うSコースがオススメ!

京都府警察本部入職
小坂 弘樹さん
法学部法律学科
京都市立塔南高等学校出身

就職活動で大切なのは熱意! 自分の言葉でしっかり思いを伝えよう。

ヤーマン株式会社入社
小森 直輝さん
経済学部経営学科
大阪府立高石高等学校出身

後列左から　小坂 弘樹さん　西山 蓮さん　濵田 博人さん　着本 大貴さん　小森 直輝さん　西田 優介さん
中列左から　松田 大輝さん　中本 健太さん　木下 優奈さん　安井 真都加さん　板山 未玖さん　門中 真樹さん　揚戸 雄哉さん　濵口 威哉さん
前列左から　笹田 圭佑さん　山本 直輝さん　荒木 省吾さん　宮地 大成さん　籔内 亮太さん

本学は夢を叶えるために十分すぎる環境が揃っています。

香川県信用組合入組
山本 直輝さん
法学部法律学科
私立香川誠陵高等学校出身

Sコース、学生消防隊……本学は成長できるチャンスがたくさんあります。

大阪府警察本部入職
籔内 亮太さん
法学部法律学科
私立阪南大学高等学校出身

本学は留学生が多くワールドワイドな交流が日常的に叶います。

株式会社ワールドコーポレーション入社
安井 真都加さん
経済学部経営学科
奈良県立生駒高等学校出身

本学は少人数制でサポートも手厚く、夢を叶えられる場所です。

株式会社イング入社
無替 博子さん
経済学部経営学科
私立大阪信愛学院高等学校出身

自分が志望する進路に向けて4年間根気強く努力してください。

株式会社ホープス入社
宮地 大成さん
法学部法律学科
奈良県立法隆寺国際高等学校出身

産学連携の授業は経営者の話を直に聞くことができて勉強になります。

株式会社サンレディース入社
松田 大輝さん
経済学部経済学科
私立大阪学院大学高等学校出身

本学の魅力は面倒見の良さ。進路に迷ったらすぐキャリアセンターへ相談を。

大阪府警察本部入職
濵田 博人さん
法学部法律学科
私立東大阪大学柏原高等学校出身

内定獲得に向けて1年生からキャリアセンターを積極的に活用しよう。

大東建託リーシング株式会社入社
濵口 威哉さん
経済学部経済学科
私立海星高等学校出身

「お金を払って4年分の時間を買う」と考え、有意義な時間を過ごそう。

株式会社アクセスヒューマネクスト入社
西山 蓮さん
経済学部経営学科
大阪府立高石高等学校出身

後列左から　浦口 健一さん　髙橋 達郎さん　北村 透惟さん
前列左から　無替 博子さん　小野山 雅子さん

趙 海燕さん

中村優輝さん

西尾 匠さん

中嶋 大輝さん

本学だからこそ、勉強と部活動どちらも全力で取り組めました。

佐竹食品株式会社入社
笹田 圭佑さん
経済学部経済学科
私立浪速高等学校出身

自分の夢を実現するため、初心を忘れず信念を貫き通してください。

兵庫県警察本部入職
髙橋 達郎さん
法学部法律学科
京都府立西城陽高等学校出身

目標があるなら絶対にあきらめないこと。必ず道は開けます。

株式会社ポオトデリカトオカツ入社
趙 海燕さん
経済学研究科経営学専攻
上海交通大学出身

自分で考える力を身につけ興味のあることに果敢に挑戦しよう。

株式会社TBSスパークル入社
着本 大貴さん
法学部法律学科
大阪府立高石高等学校出身

1年生から就職活動をスタートさせれば3年間十分に準備できます。

大阪府警察本部入職
中嶋 大輝さん
法学部法律学科
兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校出身

内定獲得には、自分の軸を定め積極的に活動することが重要です。

イオンリテール株式会社入社
中村 優輝さん
法学部法律学科
私立三田松聖高等学校出身

勉強に部活にアルバイトに……いろんな人に出会って視野を広げてください。

ホシザキ阪神株式会社入社
中本 健太さん
経済学部経済学科
島根県立島根中央高等学校出身

国際交流活動や留学経験は就職活動に役立ちます。ぜひ参加して!

パーソルキャリア株式会社入社
西尾 匠さん
法学部法律学科
駒澤大学付属苫小牧高等学校出身

4年間経験値を高め、広い視野で多角的に考えて進路を決定しましょう。

平和観光株式会社入社
西田 優介さん
法学部法律学科
大阪府立布施北高等学校出身

P1
●4年間の学びを胸に、いま、夢の未来へ!

P2.P3 特集
●「就活実践Camp」
目指す進路をつかみ取るため! 本気で挑んだ3日間

P4
●学生消防隊「SAFETY」が地域防災力の新たな担い手として出初式に参加
●海外プロジェクト グローバルキャリア体験レポート　●私の座右の銘

就活実践Camp

目指す進路をつかみ取るため！本気で挑んだ3日間

2月7日〈木〉 就活実践Camp 1日目

就活ガイダンス①面接対策

今年も就活実践Campが始まります。会場となるホテルフクラシア大阪ベイには281人の3年生が集まりました。面接対策では、企業側の評価ポイントを解説。例えば第一印象を決める挨拶は、相手の目を見る、大きな声で言葉をかける、丁寧にお辞儀するの3段階で行います。基本的なマナーが印象を大きく変えると知り、就職活動に対する意識が一気に高まりました。

就活ガイダンス②ビジネスマナー対策

続いては、男女に分かれ、ビジネスマナーを学びます。男子クラスはネクタイの結び方や長さだけでなく、「服装自由」と言われた時の対応も。自由とは言え油断は禁物で、ビジネスカジュアルが無難です。また女子クラスでは昨今の社会情勢を受けて女性のキャリアアップにも話が及び、「えるぼし認定」「生涯年収」といった観点から企業を選ぶ必要性があることを学びました。

グループワーク

この3日間、学生は12人程度のグループでプログラムに取り組みます。ここでは、企業志望グループが一定の条件の下、優先順位をつける「コンセンサスゲーム」に取り組み、公務員志望グループが、災害時のジレンマをテーマとした「クロスロード」に取り組みました。このグループワークを通して、学生たちはチームワークとコミュニケーションの大切さを改めて実感したようです。翌日のグループディスカッションに向けて弾みをつけました。

パネルディスカッション

就活実践Campには、4年生の内定者が学生のサポート役として参加しています。今年は全27人が登壇し、自身の経験をもとに最新の就職情報をアドバイスしました。熱心に聞き入っていた学生からも、面接対策と具体的な練習方法、志望する業界の見極め方について積極的に質問の手が上がっていました。

2月8日〈金〉 就活実践Camp 2日目

面接実践①グループディスカッション

2日目を迎え、プログラムはより実践的な内容へ。学生たちは朝から予習に励み、意識の変化が表情や行動に出てきたようです。グループディスカッションでは、大阪万博をふまえた国際博覧会に関する時事問題が出題されました。これらは主観で考えるだけでなく、「志望する企業なら?公務員なら?」との観点から考えることがポイント。新たな視点を得て、発言により深みが増しました。

面接実践②個人面接

就活実践Campの山場と言えるのが個人面接。本学教職員だけでなく企業の人事担当者を面接官に迎え、まさに本番さながらの緊張感です。しかしその分、企業側の評価点、実践的なアドバイスを聞ける貴重なチャンスでもあります。フィードバックの時間では、自ら面接官に質問する学生の姿があり、自身の抱える課題についてより明確に理解できている様子が見られました。

テーマ別ガイダンス

この時間は、外部講師を迎えた5つのコースが設けられ、学生はその中から自身の進路に合ったコースを2つ選択します。公務員志望者には「就活の進め方」「求められる素養」、民間企業志望者には「採用テスト対策」「自己PR」、また「国際体験を生かした就活」といった多彩なコースがあり、より具体性の高い指導が行われました。

メンター相談会

今年新たに登場したのが、メンター相談です。前日のパネルディスカッションの後、「もっと話を聞きたい!」という要望を受けて設けられました。メンターと一対一で話ができるとあって、内定獲得に向けた工夫や活動方法に関する質問だけでなく、自身の就職活動の悩みを相談する姿も。先輩からの熱いエールを受け、さらにやる気に拍車がかかったようでした。

2月9日〈土〉 就活実践Camp 3日目

面接実践③集団面接

複数の学生とともに行われる集団面接は、個人面接とは違ったプレッシャーが生まれます。その対策として、質問を受ける側と、それを観察する側の2グループに分かれて面接練習が行われました。面接官に加え、仲間からの視線を感じながら平常心を保つ訓練と、面接官目線で客観的に観察することで得る発見、この相乗効果によって、苦手意識が消え強い手応えを感じたようです。

業界セミナー

3日間の総仕上げとなる業界セミナーでは、会場に53のブースが並びました。業種は金融、商社、ホテルと多岐にわたり、自分が志望する業界だけでなく、例えば観光業界とインテリア業界のように、分野が異なる複数の業界に接して、視野を広げることが可能です。学生は最後まで熱心に各ブースを訪ねており、Campで得た学びをしっかり実践に生かすことでしょう。

学内合同会社説明会を開催 本格スタートに向けて！

本学に興味を持つ約50社が2日間集合　他の説明会に比べ圧倒的に有利な場

2019年2月21(木)、22日(金)に八尾駅前キャンパスにて「学内合同会社説明会」が開催されました。両日とも金融、商社、IT・情報処理、流通など約50社もの企業が一堂に会し、会場は熱気溢れる雰囲気に包まれました。

各地で開催される合同説明会は、一度に多数の企業を回ることができるので業界研究に最適です。学内開催の場合、すでに採用実績があり本学の学生に興味を持っている企業が集まるため圧倒的に有利です。就活実践Campを経て気合い十分の学生たちは、各企業の説明を聞くだけでなく自ら質問する姿も。「次のステップに向けて、しっかりと自分をアピールする場だと思って積極的に行動しました」と本格スタートに向けて意欲をにじませました。

プロが合同説明会の回り方を伝授！

今回、学内合同会社説明会に先駆けてマイナビ担当者による「合同会社説明会の回り方講座」が行われました。合同説明会は効率よく回るだけでなく、同業種の中で多数の企業を回ることがポイント。それぞれの企業の特色が分かり志望動機に説得力を持たせることができるからです。また、講師からは「説明会も面接の一環」という一言も。説明を聞くだけの受け身の姿勢から適切な質問を積極的に行うなど攻めの姿勢へ意識改革を呼びかけました。

就活実践Camp 参加者の声

上嶋 幹汰さん
法学部法律学科4年生
私立英明高等学校出身

「あの就活実践Campは絶対に参加したほうがいい。自分のためになるから」という先輩の言葉に魅かれて参加しましたが、本当に中身の濃い3日間でした。

特に心に残ったのは初日のガイダンスで「仕事で人生が決まる」と言われたことです。自分が本当に大事な時期を迎えていることを自覚するとともに、準備不足を反省しました。

ただ、明確な課題が見つかると、自分が何をすべきか自然と分かってくるものです。参加前に感じていた漠然とした不安がなくなり、今は「やってやろう!」という気持ちでいっぱいです。

話し合いの場で必要なのは相手の意見を受け入れる柔軟性

グループワークでは、話し合うのに夢中になりあっという間に時間が過ぎてしまいました。率先して話を進める司会者や書記、タイムキーパーも大切な役割ですが私の場合、司会者のサポート的な役回りのほうが合っているようです。普段からそういった立ち位置になることが多いからかもしれませんが、話し合いに対する自分なりのスタンスが見つかったことは大きな収穫です。グループディスカッションに向けて少し自信がつきました。

グループワーク

近藤 真さん
経済学部経営学科4年生
私立大阪高等学校出身

就活実践Campでは、本番さながらの緊張感の漂う雰囲気でグループディスカッションや面接が受けられると聞き、期待して参加しました。実際、3日間全プログラムに対して「就活生」という緊張感を持ち真剣に取り組むことができたと満足しています。グループのメンバーも学部、学科に関わらず構成されており、初対面のメンバーが多いので、より実際の面接現場に近い環境で面接を体験することができました。ここまでの緊張感は、普段のキャリア演習ではなかなか味わえるものではありません。熱心に就活準備を進めている周囲の姿に刺激を受け、「本気で向き合おう」と覚悟が決まりました。

「会社にどう貢献できるか?」が自己PRの一番のポイント

個人面接では、企業の担当者の方から鋭い指摘を受けました。自分自身、準備不足であることを痛感しましたが、おかげで評価されるポイントがよく理解できました。特に自己PRは、単に学生時代の取り組みを話すだけでは不十分で「入社後どういう形で仕事に生かし会社に貢献できるか」が重要視されると分かりました。また伝え方も大切で、皆が使いそうな決まり文句では印象に残らないので自分の言葉で熱意を持って伝えられるよう、再度自己PRの内容を見直します。

個人面接

就活実践Campに参加することによって、就職活動について客観的に見つめ直すことができました。自分ではそれなりに準備ができていると思っていましたが、自己PRの内容が分かりづらかったり、面接で声が小さく元気がない印象になってしまったり、先生からのアドバイスで意識していなかった新たな問題点に気づきました。また、内定を獲得した先輩からどんな工夫や努力をされたのか、具体的な話を聞き知ることができました。どれも、自分一人では気づけなかったことばかりです。内定獲得に向け具体的な課題が見つかり、対策が取りやすくなりました。

石塚 愛梨さん
経済学部経済学科4年生
大阪府立貝塚南高等学校出身

個人面接との違いを理解し集団面接ならではの対策を

集団面接の場合、一人あたりの持ち時間が限られているため、要点をまとめて伝えることが大切です。また、周囲の意見をしっかり聞くことも必要で、質問によっては他の学生の意見を聞いた感想を求められることもあると知ることができました。他のグループの「観察」をして分かったことは、発言していない時も採点されているということです。同じ面接でも、集団面接と個人面接では求められているものが違うということがよく分かりました。

集団面接

曲 艤帆さん
国際学部国際学科4年生
陝西省旅遊学校出身

私は、今回の就活実践Campを通して企業目線でものを考えることを学びました。自分なりに自己分析してきましたが、先生方や企業の人事担当者の方から客観的な意見をもらうと、考えが浅かったり視野が狭かったり。企業が求める人物像を理解できていないと気づきました。

私が目指しているのは貿易関連の日本企業です。語学力など自分の強みをエントリーシートや面接でどのようにアピールすべきか、企業目線に立ってもう一度考え直そうと思います。当初は「日本の就職事情について知れたらいいな」と軽い考えで参加しましたが、予想以上に大きな学びを得ることができました。

グループ全体に気を配り「全員で合格しよう!」を心がけて

他の学生に比べて日本語が流暢に話せないことに不安を感じ、「積極的に発言できるのだろうか?」と気になっていました。しかし実際に体験すると、積極性だけでなく周囲との協調性、テーマに沿って話す論理性も大切だということが分かりました。特に、先生がおっしゃった「自分だけが自立つのではなく、班全員で合格しようという意識を持つ」という言葉は印象的です。当初の不安や抵抗感が消えて、落ち着いた気持ちで取り組めるようになりました。

グループディスカッション

大阪経済法科大学 合同グループディスカッション 大阪樟蔭女子大学

面接練習の総仕上げとして大阪樟蔭女子大学と合同練習を開催

大切なのは“本番さながらの緊張感”
初対面の人と行うことで平常心を鍛える

就活実践Campを終え、3年生・修士1年が就職活動に向けてますます意欲を燃やす中、2月25日に大阪樟蔭女子大学の学生との合同練習を行いました。

面接の場で大切なのは、自分の持つ力を十分に発揮すること。学内で行う集団模擬面接やグループディスカッションでは、顔なじみのメンバーが多いため、どこか安心感が生まれて気が緩んでしまいがちです。しかしこの日は、本学の学生11人(男子10人、女子1人)、大阪樟蔭女子大学の学生18人の計29人が参加し、メンバーの大半は初対面。

男子学生が多い本学の学生達は、女子比率の高い中での練習や初対面の相手とのコミュニケーションに戸惑いを感じつつも、大阪樟蔭女子大学の学生の積極的な言動に感化され、良い刺激を受けた様子。本番に向けてより実践的な学びの場となりました。

学生消防隊「SAFETY」が地域防災力の新たな担い手として出初式に参加

本学には、八尾市消防本部との協定によって誕生した「SAFETY」という消防支援ボランティアサークルがあり、消防隊員から消火活動や救護処置に関する実践的な指導を受けています。

1月14日には、大阪府中部広域防災拠点（八尾空港内）で行われた「八尾市消防出初式」にSAFETYが参加。災害現場さながらの迅速な救助隊訓練披露などに続き、SAFETYのメンバーも一斉放水に参加しました。勢いよく放出された水が力強い弧を描く光景は圧巻！ ホースを伝わるすさまじい水圧に臆さず立ち振る舞う姿には、日頃の訓練が十分に生きていました。今年も新規隊員を募集しますのでぜひご応募ください。

SAFETYでは、現場で活躍する消防隊員のみなさんから実際の災害現場でのリアルな話も聞くことができ、机上の勉強だけでは理解できない消防の底力を実感できます。私は、活動を機に本気で消防の道に進む覚悟が決まり、昨年の大阪府北部地震の際には、自ら近所の方々の安否確認に歩き回りました。SAFETYは参加者の意識を変え、行動を変え、人生を変えてくれる活動です。

船木 睦也さん
法学部法律学科3年生
大阪府立北摂つばさ高等学校出身

私はSAFETYに憧れて本学に入学しました。実際、活動に参加すると、消防隊員から指導を受けるだけでなくそれを地域の方々に伝える訓練もあり、次世代を担う防災リーダーとしての自覚が徐々に強くなってきました。最近は、避難所の運営など災害現場での女性の視点がますます重要視されています。私たちだからこそできる役割がありますので、女子学生の皆さんもぜひ一緒に活動しましょう。

松本 里華子さん
法学部法律学科1年生
私立梅花高等学校出身

学生消防隊「SAFETY」新入隊員を募集します！

対象：1・2・3年生
※公務員（消防・警察・行政）志望者はもちろん、民間企業志望者も応募可能です

- 今年度隊員定員数:80名（各学年定員約25～30名募集）
- 応募者は全員面接を行います
- 申し込み締切:4/12（金）
- 入隊希望者は説明会に必ず参加して下さい

【隊員の特典】
◆活動実績に応じて、「八尾市消防ボランティア活動認証状」を交付
◆学生の自己PR作成や公務員採用試験の受験にあたって当該証明書を有効に活用できます!

【2018年度活動内容】
◆普通救命講習の受講
◆八尾市消防本部や地域と連携した防災活動への参加
◆八尾市消防本部主催の総合訓練の参加 等

【説明会】
4/8（月）・9（火）12:20～12:50
花岡キャンパス・クロノス3階　ガリオン
4/10（水）12:20～12:50
八尾駅前キャンパス・3階キャリアセンター

【第1回訓練:防災講演・災害訓練】※参加が必須となります
4/27（土）10:00～17:00 @花岡キャンパス（予定）

【申込み・問合せ】
八尾駅前キャンパス3階キャリアセンター
Tel:072-920-4713

海外プロジェクト グローバルキャリア体験レポート

海外インターンシップ in ヨーロッパ

ヨーロッパ

靴の買付業務に同行し、流行の仕掛人・バイヤーを体験

トレンドが目まぐるしく変化するファッション業界では、半年以上も前から来シーズンの展示会が行われます。2月6日～2月14日の海外インターンシップでは、婦人靴のインポート・製造を行う株式会社ハヤシゴの2019年秋冬商品の買付に同行。2～3年生2人が参加しました。一行はドイツで、ヨーロッパ屈指の靴メーカー・Gaborを訪れ発注業務を体験した後、イタリアへ移動しデパートを巡り市場調査を実施。さらに靴の見本市と呼ばれる「MICAM展」に参加しました。2カ国の人、物、街に触れることで市場ニーズに気づくとともに、バイヤーの視点から流通を考えるきっかけとなりました。

海外インターンシップ in ベトナム

東南アジア

言葉の壁を越え、海外でのキャリアイメージを描く

グローバル化が進むにつれ、海外進出する日本企業が増えています。2月27日～3月6日のグローバルキャリア体験では1～2年生8人がハノイ、ホーチミンを巡り、八尾市に本社を置く株式会社伸明、カンエイ産業株式会社を含む日系企業10社を視察し、現地のベトナム人学生とも交流しました。また、2月27日～3月13日に1・3年生3名があけぼの化成株式会社、SAKURA HOTELで2週間のインターンシップに参加しました。日本とベトナムの、異文化理解と言葉の壁を越えたリアルなコミュニケーションに、参加学生は「現地採用」という働き方の可能性を見出した様子。「就職活動の選択肢が広がった」と充実ぶりを伺わせました。

海外インターンシップ in タイ

東南アジア

インバウンドのニーズを察知し自ら旅行プランを企画

2月12日～3月7日まで行われたタイでの海外インターンシップでは、2年生1人がH.I.S. TOURS CO.,LTD.での就業体験に1カ月間参加しました。タイに到着後、まずはアジア最大級の国際旅行フェア「TITF」に参加し、商談の見学やチラシ配布を担当。日本の旅行商品を探すタイ人が多く集まるイベントだけに、インバウンドのニーズをリサーチできたようです。

それを生かして、その後は新商品に関するポスターや利用者に向けたアンケートの制作、旅行ツアーの企画・提案にも挑戦しました。ツアーについては、利用可能なクーポンを学生目線で提案したところ研修先から評価を得ることができ、学生自身も大きな手応えを感じていました。

my motto 私の座右の銘 「Festina lente. ゆっくり急げ」

将来何になりたいのかはっきりしないけれど、何かにはならなければならない――それもそう遠くないうちに。漠然とそうした気分につつまれて過ごした学生時代、履修した共通教育科目のラテン語の授業で行きあたった言葉です。

「ゆっくり・急げ」というのは、もちろん矛盾した言い方で、文字通りに受けとると「どっちやねん!?」となるわけですが、長いようで短い（または短いようで長い）学生生活を、寄り道しつつダラケつつ、でも焦りつつ過ごしていた私にとって、これはたしかに励ましの意味をもつものでした。

それから十余年。「何かになる」ということは、組織の、社会の一員として「いつまでに」と期限の定まった仕事を日ごと月ごとにこなしてゆくということですが、そうして気ぜわしくしていると、不思議なことに、ふとこの言葉が浮かんできます。そして、同じように励まされている自分を見出します。――急がされつつ、でもゆっくり行こう、と。

京都大学大学院人間・環境学研究科　博士（人間・環境学）**渡邉 浩一**
教養部特別専任准教授